

音楽通じ心つなぐ14年に幕

千葉市中央区 30日きぼーるで有終



障害の有無にかかわらず共に演奏を楽しみ、音楽の力で「心のバリア」を乗り越えようと始まり、毎年開催されてきた「ふれあいコンサート」が、30日に千葉市中央区のきぼーるで開かれる今年の開催をもって幕を下ろす。主催するNPO法人「ちば特別支援教育」(同区)は、厳しい財政や人手不足を乗り越えて14年間続けてきた。同NPOの新田江美子さん(75)は「最後になるが、皆さんにお届けした『しあわせのたね』が、どこかで芽吹いてくれたら」と期待する。(大村 颯)

「じゃあ、通してやりましょー!」。かけ声とともに流れた音楽に合わせダンスや歌の練習に励むのは障害者やその家族によるグループ「りんごの家」。音楽を通じて障害への理解を深めてもらう「ふれあいコンサート」に向け、千葉市美浜区の真砂コミュニティセンターで2日、楽しそうな表情で練習に励んでいた。りんごの家の家もともと、病院の発達外来で障害児の運動不足を解消しようと30年ほど前に立ち上げたのが始まり。数人で始まった活動は「気付いたら増えていました(井出さん)」というように次第に広がり、今ではダウン症や発達障害の障害者を中心に、その親やきょうだいを含め、約50人が参加している。コンサートでは曲に合わせてパフォーマンズやダンス、歌を披露する。主催するNPO法人「ちば特別支援教育」(同市

父母も笑顔で練習

「成果見に来て」呼びかけ

中央区の「りんごの家」の新田江美子さんはこの日、練習を見守りながら、「実は(特別支援級の)教員がたくさんいます」と目を細めた。「今、パフォーマンズに変更があったので、でも臨機応変に対応できている。小さい時はパニックになることもあったのに」と成長をつれしように話す。このグループの特徴は、母親だけでなく、父親も練習に参加している点だ。井出さんは「お母



本番に向けて練習に励む「りんごの家」のメンバー

さんも参加するグループは他にもあるが、ここはお父さんも積極的に参加してくれると話し「なんだでしょーね。でも楽しいからだと思います」と笑った。10年以上、活動に参加している田代三枝さん(66)は「りんごの家は」なくてはならない存在。子どもたちも楽しんでいる」と話す。夫の誠一郎さん(67)も一緒に参加し、「最初はボランティアだったけど、だんだんと頼られるようになってきた。他のお父さんたちと相談することもできる。つながりができ、一緒に飲みに行くこともある」と笑顔を見せた。

グループ「りんごの家」

同NPOは障害児への学びや生活の支援を目的として、特別支援教育に関わる教諭を中心として設立。教諭同士の研修会や保護者・教諭からの相談対応、卒業後の支援などを行っている。コンサートは障害への理解を深めてもらい、共生できる地域社会を目指して2011年にスタート。障害の有無にかかわらず多くの団体が参加し、歌やダンスを披露してきた。これまで37団体が出演し、延べ1万人が来場したという。最後となる今回はゲストとしてプロフルート奏者の荒川洋さんが登場。ダウン症の妹・知子さんに「同市内特別支援学校出身」とトファミリーアンサンブルを披露する。千葉大学リコーグループ「ワークアイ」、教職員合唱団「夢と虹」など計10団体が出演する。コンサートは30日午後1時開演。千葉市中央区中央4の5の1の「きぼーる」1階アトリウムで。入場無料。

障害へ理解深め共生目指す

「ふれあいコンサート」

ふれあいコンサートのチラシ。「みんなとほそーしあわせのたねをテーマに開催してきた」

県内の天気

北西部 予想気温 最高17 最低10 降水確率 6時 10 12 10 10 風向 波 0.5m

北東部 予想気温 最高18 最低12 降水確率 6時 20 12 18 24 風向 波 1.5m

南部 予想気温 最高19 最低9 降水確率 6時 30 12 30 10 風向 波 1.5m

きょうの紙面 テレビ 19 ラジオ 18

千葉日報

発行所 郵便番号 260-8628 千葉市中央区中央4丁目14番10 千葉日報社 電話 043(222)9211 ©2025

11月13日(木)

一般財団法人 木更津自動車学校 0438(3)6(4)0022

フィギュア界に「新星」3



「花の甲子園」へ腕磨く 2

子ども新聞「ちばにち家」